

# ビワ生育情報

千葉県  
平成26年12月号

## 平成26年11月の気象

平成26年11月の半旬別気象は表1に示した。平均気温は、第4半旬は平年より1.3℃低かったが、その他の半旬では平年と同じか1.0～1.7℃上回った。月平均は13.8℃で、平年より0.6℃、前年より1.3℃高かった。

降水量は、第1半旬は平年をわずかに上回ったが、第2～第5半旬では平年を大きく下回った。月合計は67mmで平年より79mm（54%）、前年より52mm（44%）少なかった。

日照時間は、第1、第2、第6半旬で平年を下回り、その他の半旬では上回った。月合計は130時間で平年より14時間（10%）、前年より43時間（25%）少なかった。

表1 平成26年11月の気象（暖地園芸研究所）

半旬	気温(℃)			降水量(mm)			日照時間(hr)		
	本年	平年	前年	本年	平年	前年	本年	平年	前年
1	16.6	15.3	15.3	21	19	26	15	24	19
2	15.8	14.8	15.4	4	36	74	8	24	19
3	13.9	13.9	9.8	1	20	2	32	23	22
4	11.0	12.3	12.7	14	25	10	30	23	42
5	12.6	11.6	11.3	5	22	0	25	24	39
6	13.1	11.4	10.7	24	24	8	21	25	32
平均/計	13.8	13.2	12.5	67	146	119	130	144	173

## 1月の作業（花房の発育は次ページ）

ビワは、厳寒期に入ると枝葉の伸長及び根の活動は停滞するが、開花は引き続き進行し、幼果はわずかながら肥大する。本年は、開花の進みが平年より早く、寒害を受けやすいと考えられるため、寒害には十分注意する。1月は春からの本格的な果実肥大に備える追肥時期である。

### 苗木の植え付け

ビワの苗木の植え付けは、発芽直前で根の活動が緩慢な時期が良く、通常は2月中下旬が適期である。枝や根の伸長が始まってからでは、植え傷みが激しく、発芽が遅れるので、天候や苗の発育をみて時期を逃さないようにする。植え付けの準備は早めしておく。

### 寒害対策

ビワの幼果は、-3℃以下の低温に遭遇すると、胚(種子)が凍死し、生育が止まり落果してしまう。蕾あるいは開花中の花は寒害を受けにくいですが、受精後は幼果の発育が進むにつれて凍死しやすくなる。本年の開花の進みは平年より早く(表3)、寒害を受けやすいと考えられる。開花が終了する1月上旬頃からは寒害対策が必要となってくる。

ビワの寒害は大陸性高気圧のもたらす寒波によって引き起こされる。本格的な寒波は1月中旬から3月上旬の間に数回襲来する。この時には、ビワ園を防寒して寒害を回避する必要がある。幼木園では、こも等の被覆資材で樹体を覆う方法、あるいは枝同士を結束する方法が効果的である。成木園では、園内をヒーターで加温して寒害を防止する。火点設置場所の整備と点火及び燃料の準備をしておく。

## 施 肥

時期別の標準施肥量は表2に示した。果実の肥大及び春枝の発芽、伸長のための追肥は、春肥または実肥と呼ばれ、1月中に施用する。ビワの根は冬期もわずかながら伸長しており、2月下旬には活発になる。春肥はこの時期に合わせて施すのが一般的で、年間施肥量の30%程度を目安に施用する。土壌pHが低い場合には、苦土石灰などの石灰資材を施用し、pH6.0～6.5に矯正する。

表2 ビワの時期別標準施肥量（成分量 kg/10a）

時 期	耕土の浅い園			耕土の深い園		
	窒素	りん酸	加里	窒素	りん酸	加里
9月上旬（基肥）	12	9	9	11	9	7
1月中旬（春肥）	10	9	5	7	8	3
6月上旬（夏肥）	5	4	4	5	3	3
合 計	27	22	18	23	20	13

（千葉県主要農作物等施肥基準より）

### 管理上の留意事項

1. 土壌pHは6.0～6.5に矯正する。
2. 苦土石灰は、化学肥料施用の2週間前に施用し、その後耕うんする。
3. 施肥後は軽く耕うんする。ただし、夏肥施用後は、その必要はない。
4. 有機物は積極的に投入する。有機物の深層施用には必ず完熟堆肥を用いる。

## 樹及び花房の発育

ビワの開花期は表3に示した。

暖地園芸研究所の開花始期は、「楠」が11月3日で、平年より6日、前年より12日早かった。「大房」が11月22日で、平年より4日、前年より28日早かった。「田中」が11月6日で、平年より8日、前年より13日早かった。開花盛期は、「楠」が11月20日で、平年より9日、前年より18日早かった。「田中」が11月17日で、平年より20日、前年より24日早かった。12月4日現在、「大房」は開花盛期に至っていない。開花終期は、「楠」が11月30日で、平年より28日、前年より26日早かった。「田中」が11月29日で、平年より44日、前年より43日早かった。

花房の出蕾が3品種共に平年より早く、11月の気温が高かった影響で、開花の進みは3品種共に平年より進んでいる。

樹体及び花房の生育は良好である。

表3 ビワの開花期（暖地園芸研究所）

品 種	開花始期(月.日)			開花盛期(月.日)			開花終期(月.日)		
	本年	平年	前年	本年	平年	前年	本年	平年	前年
楠	11. 3	11. 9	11.15	11.20	11.29	12. 8	11.30	12.28	12.26
大 房	11.22	11.26	12.20	—	12.22	1. 9	—	1.31	2.11
田 中	11. 6	11.14	11.19	11.17	12. 7	12.11	11.29	1.11	1.10

平年：1984年～2013年の30年間の平均

【問合せ先：千葉県農林総合研究センター 暖地園芸研究所 特産果樹研究室 電話0470-22-2961】

※果樹の生育情報は「ちばの農林水産業」の「生育情報」でも御覧いただけます。

<http://www.pref.chiba.lg.jp/seisan/seiiku/index.html>